

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

**事業所名**

グループホーム のぞみ

日付 平成 21年 3 月 30 日

特定非営利活動法人

**評価機関名**

ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

**1. 評価結果の概要**

**講評**

全体を通して(特に良いと思われる点など)

児島郡灘崎町彦崎という地が無医村となり、当時の町長からこの地で開業するよう要請を受け、昭和63年に診療所を開業して以来、彦崎や興徐村一帯の住民の健康な生活を支援してきた院長は、医療だけでは高齢者が安心して在宅で暮らす事はできないと、介護療養型病棟とデイケアサービス事業を併設して治療後のフォローしてきた。更に在宅でケア出来なくなった認知症高齢者が安心して暮らせる生活の場を提供するため、当時の老人アパートを活用して平成13年2月にこのグループホームを開設した。この法人の運営する5つのグループホームとして先駆的存在であり、池田病院グループの認知症ケアの基礎を築いた。

このグループホームは、後続のホームと違ってアパートの改造であるので、ハード面から見ると不便で住みづらいということは否定できない。居室は住居機能を持っているので、トイレと洗面は自室で出来て便利であると云えるが、2階建になっているので1階部分と2階部分に別れており、利用者自身の移動と職員の見守りと声かけ、誘導など大変である。リビングルームや共用空間はぎりぎりの広さなので、利用者と職員の行動範囲に制約もある。ハード面から見ると大変なところをカバーするのは、利用者と職員が醸し出すソフト面、即ち人間関係から形成される楽しい我が家である。

まず、職員の殆んどが常勤職員で、医療法人の専務理事(創設者)を頂点として、5つのホームを統制している管理者がいて、5つのホームの管理者や計画作成担当者そして職員が一体となってケア及びサービスに専念しているところである。その上に医院の院長(理事長)と医療スタッフが支援しているという運営形態が存在していることであり、法人全体に一体感を見ることが出来る。このホームの管理者は今年度から就任したが、このホームでの勤務も長く、経験豊かで利用者との馴染みもあるので安心である。理念もケアの心得も共通しているので、この法人の特長は、各ホームの管理者や計画作成担当者と職員は法人内異動がよくあるが、その都度違和感を感じない。グループホームでトップが変わると、そのホームの様子ががらっと変わってしまうケースが多い中、この法人内グループホームはいつも落ち着いているのが特長と云える。

「最初の“のぞみ”の志を貫いていきたい。利用者の方が好きな職員ばかりです。利用者の話をしっかり聞いて、トラブルの少なく、仲良く笑顔で過ごすことが一番です」と管理者は言い切った。一人ひとり身体の不自由さ、認知症の症状の違い、性格や感受性、能力等千差万別であるが、100歳の女性を筆頭に2人の男性を含めての9人がリビングルームに集まり、狭いながらも楽しい我が家を職員と共に形成しているグループホームを見た。

特に改善の余地があると思われる点

このホームのハード面を見ると、まだ重度化していない利用者だけでも一時的に開放的な感じで過ごせる時間を少しでも持ってもらえる機会を提供できないかと思う。一週間の中で少しの時間を決めて、他の2つのホームのリビングルームで他の利用者と交流した生活を味わわせてあげることではできないものだろうかと思う。

## 2. 評価結果 (詳細)

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…: 理念やケアの心得は全部のグループホームに共通しているが、それぞれのグループホームでは目標を定め、ケアの特長を出している。理念は玄関に掲示して、職員で共通の認識を持っている。</p> <p>2. 全体的に見て…: 理念は「尊厳・個別ケア・選択の自由」を大切にしたいケアとサービス提供をしていこうと考えている。このホームでは主として、個別ケアを第一に掲げている。リビングルームに9人の利用者が集まっても利用者は自由に歩き回ることも出来ない。広いスペースの中で好きな事をするのが難しい境遇の中で、利用者一人ひとりがどのような気持ちで一つの空間の中で食事をしたり、歌を歌ったり、体操をしたり、又、塗り絵やゲームをして楽しむためには、個別ケアの大切さが最も重要だと思う。</p>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…: 生活空間はハード面では改善することはない。前面道路に面しており、外部空間の活用も出来ないため、評価不能となっている。外出できる利用者は散歩や昼市に出かける。</p> <p>2. 全体的に見て…: 居室にはトイレと洗面台があり、利用者は自分の部屋で洗面と排泄が出来るので、便利である。自立したり、見守りで行動が出来る人にとっては便利であるが、重度化してきて一つひとつの行動に対しケアしなければならぬと職員のケアも大変になってくるが、それを克服して一人ひとりが少しでも自分の部屋で暮らせる生活を大切にできるように支援している姿には敬服出来る。利用者の重度化によるADL機能の衰退によって入浴に不便をきたすので、隣のグループホームの機械浴槽の利用も考えている。</p>		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にしたい整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…: ケアの重要性和職員の利用者に対する一つひとつの業務がきちっと介護計画と記録の中に反映されており、職員の日常の仕事の証しが残していけば、それが又、次の介護計画の見直しに反映されていくというプロセスを見直しで改良していこうとする意欲を見せている。又、個別ケアの一つで、利用者が日頃行けない思い出の場所、自分の家や墓参り等へ行きたいという希望を聞き、家族とも相談したその思いを実現できることも検討したいと考えている。これが現実になると利用者の夢も叶うと思うので実現して欲しい。</p> <p>2. 全体的に見て…: 職員は8名配置されており、家族もお願いしたり、何かあったらすぐ来訪してくれるようになり、職員と家族の手厚いケアと見守りによって、利用者は落ち着きを見せ、帰宅願望や頻りに電話をする利用者はいなくなり、皆安心して生活できるようになった。</p>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…: 運営体制と地域との連帯や災害対策と運営推進会議等はグループホーム単体というよりは、法人全体あるいはこの地の3つのグループホームが連携して考える必要がある。家族に自宅への外泊の機会を持ってもらえるよう要請しているが、まだ実現した例はないようだ。利用者に自分の家や家族を尊び、懐かしむ気持ちを持ってもらい、住む所はグループホームが一番良い、楽しいと利用者と言ってもらい、家族も安心できるグループホームになってくれれば最高である。</p> <p>2. 全体的に見て…: 法人母体の医院が同一敷地内にあり、院長はじめ医療スタッフがいつでも利用者の状態を見てくれ、病気になれば対応してくれるので、利用者も家族も安心である。3つのグループホームが隣接しているため、職員も安心できるし、5つのホーム合同で行う寿祭は、利用者の交流、家族との連帯を深め、地域との交流を深めている。毎年盛んになっている。</p>		